



# 学習環境づくりという視座

言語文化教育研究学会第2回年次大会 2016.3.13

「多文化共生」と向き合う

【シンポジウム】多文化共生と多様性－教育に何ができるのか

宇都宮 裕章  
静岡大学大学院教育学領域



# はじめに(エピソードに寄せて)

- インドネシアからの留学生
  - 「無いものは無い」?
- お茶の味
  - 中国茶と日本茶



# 変容にどこまで寛容になれるか

- 人が集まる(社会になる)と
  - 許容が難しくなる
  - 排他的にもなる
- 教育現場は社会の縮図
  - 特に日本の現場は「異なり」に厳しい
  - 「異なり」を良しとしない雰囲気



# 教育現場からの発信

- 教育現場を変えれば？
  - 異なりを活かす
  - 違いがあるから面白い
  - 差を使って有意義な学びをする



# 主言語(母語)学習 (8年生・サンパウロ)





# 主言語(母語)学習 (8年生・サンパウロ)

- ・話し合いの中での学習が前提(最初から班形態に)
- ・個人の学習が班の学習に、班の学習が全体の学習に、全体の学習が個人の学習に
- ・「ことば」を学びながら、「ことば」を使う
- ・学校の外の世界と自分とをつなぐ



# 主流語(第二言語)学習 (小学生・静岡県)





## 主流語(第二言語)学習 (小学生・静岡県)

- ・学習者の日常生活と直結する素材
- ・所属学級(原学級)と特別学級を切り離さない  
(ハード面も・ソフト面も)
- ・「ことば」を学びながら、「ことば」で褒める・友達と話す  
宿題をする・相談する・・・





# 教科学習（小学生・静岡県）





# 教科学習（小学生・静岡県）

- ・他のクラスと同じ単元・同じ教材・同じ進度
- ・「ことばが通じる」を授業運営の必要条件にしなくて良い
- ・教科内容理解も、意味を生み出す双方向的（対話的）言語活動の中で進めることができる



# 教科学習（中学生・静岡県）





# 教科学習（中学生・静岡県）

- ・全体にはついていけなくても、友人にはついていける
- ・複層化する「個人活動」「対人活動」「集団活動」
- ・どんな教科でも、「ことば」で発言し、質問し、表現し、理解していく
- ・行為に伴うことば、ことばに伴う行為



# 特別活動（外国人学校・静岡県）





## 特別活動（外国人学校・静岡県）

- ・生まれて初めての作業でも、協働でなんとかなる
- ・「ことばが通じる」を授業運営の必要条件にしなくて良い
- ・身体的技術修得も、意味を生み出す双方向的（対話的）言語活動の中で進めることができる



# 専門科目（大学生・インドネシア）





# 専門科目（大学生・インドネシア）

- ・専門用語の導入は、理解の後でも可
- ・理解は、教員の支え＋他者との相互交流で
- ・表現も、互いに確認し合いながら（一方向的な言語運用にしない）





# 参考文献

- 宇都宮裕章 (2011) 『新ことば教育論—いのち・きもち・だいちの考察』風間書房
- 宇都宮裕章 (2013) 「対話的教育実践の意義—サンパウロ市立学校での言語教育に学ぶ」『静岡大学教育実践総合センター紀要』第21号. 1-10.
- van Lier, L. (2004) *The Ecology and Semiotics of Language Learning: A Sociocultural Perspective*. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers. [『生態学が教育を変える—多言語社会の処方箋』ふくろう出版. 2009年]
- 教育言語学について  
<http://v.sutv.shizuoka.ac.jp/utnmy>